

【肺炎球菌がなぜ問題か？】

肺炎球菌は成人の気道に常在しますが、脾臓を摘出したたり糖尿病やがん、ステロイド使用中といった免疫の落ちている状況や、インフルエンザの感染直後等では肺炎を起こすことがあります。肺炎のほかに、副鼻腔炎、中耳炎、時に敗血症、髄膜炎といった重篤な疾病の原因となり、いったん肺炎・敗血症・髄膜炎になると強い病原性を発揮し、死亡や障害を残す割合が非常に高くなります。

【肺炎がなぜ問題か？】

肺炎は日本人の死因の第4位であり、普通の暮らしで感染する肺炎の原因の第一位が、この肺炎球菌によるものです。

【どんな症状？】

潜伏期は1-3日と短く、突然の、ふるえや悪寒を伴う高熱で始まります。咳や痰、呼吸困難、胸痛も現れます。高齢者では高熱や咳や痰といった典型的な症状を示さないことがあるので気をつけましょう。

【診断は？】

胸部X線検査。喀痰検査で菌の検出。尿中抗原検査という、1時間程度で結果が分かる迅速検査もあります

【治療は】

抗生物質が効きますが、時に耐性菌が知られています。

【予防は】

一人ひとりが高い確率で体内に持っている菌なので、手洗いうがいで防げません。他の気道感染症のあとに見られるので、インフルエンザ等気道感染症にかからないための手洗いうがいは大切です。ワクチンによる重症化防止が有効です。

【肺炎球菌ワクチンとは？】

肺炎球菌には、91種類の血清型が知られていますが、その中で、人に病原性を持ち、感染する危険の高い23種類に対応しています。接種により感染の80%に対応できると見られています。2歳以上の、免疫の低下している方、脾臓摘出した方、65歳以上の高齢者が対象です。米国では、喘息や喫煙者である成人も対象になっています。1回の接種で、5年間は有効です。ワクチンを導入した国では、重症疾患の減少がみられています。2歳未満には小児用ワクチンが開発されていますが、成人とは異なり4回の接種が必要ですのでご注意ください。

**まとめ:** 広く日常生活で見られ、免疫が低下した時に重症感染症を起こす肺炎球菌ですが、いったん罹患すると、死亡率も、障害率も高い、大変恐ろしい感染症です。基礎疾患のある方は、予防接種について、是非主治医へご相談されるようおすすめいたします。